

第74回 公開講座

アジア・太平洋戦争期の神戸華僑

日時 2013年6月21日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 飛田 雄一（委嘱研究員）

神戸の歴史は華僑と関係を抜きにしては語られません。1868年の神戸港開港後、欧米人のための「外国人居留地」が現在の三宮駅南西につくられましたが、彼ら欧米人の貿易等の仕事に華僑の力が必要でした。洋裁、簿記、通訳などの仕事です。また、北野町一帯の「異人館」のペンキ職人も華僑でした。しかし彼らは居留地内に住むことが許されませんでした。そのため、居留地の西の地域に華僑が住むようになりました。そこが今の「南京町」です。

南京町は、1995年の阪神淡路大震災でも大きな被害を受けましたが、ライフラインが確保されない時期から、「炊き出し」をおこないました。多くの被災者が暖かい食事を口にすることができました。もともと南京町には屋台がありませんでしたが、現在南京町のトレードマークにもなっている屋台は阪神淡路大震災のときのボランティア活動がきっかけだったといわれています。

戦前の日本は、アジアの国々を侵略しました。その中で、とりわけアジア・太平洋戦争の時期に神戸華僑は敵国人として厳しい監視のもとにおかれました。そんななかで、大きな事件が起きました。「神戸呉服行商弾圧事件」です。1944年8月、呉服の行商をしていた神戸の華僑13名が「スパイ容疑」で逮捕され、うち6名が拷問により拘留中または釈放後に死亡するという事件です。そのおひとり陳守海さん（1908年福建省生まれ）は終戦7カ月前の1945年1月、大阪曾根崎警察署で命を奪われています。

1993年8月4日、NHKが「夫たちが連れて行かれた～神戸・華僑たちと日中戦争」（45分）を放映しました。神戸市外国語大学（当時）に通う華僑の学生が、当時弾圧にあった方々の奥さまを訪ねて話を聞くというドキュメンタリー番組です。そのおひとり林木宋さんは、曾根崎警察で夫・陳守海さんの変わり果てた遺体と対面したときの様子を生々しく語られています。一昨年、その陳守海さんの娘・林珠榮さん（1941.6神戸市生まれ、姫路市在住）が、『落涙成珠～ある華僑の詩』を出版されました。この本は、母・林木宋さん（1916.10生まれ）と林珠榮さん母娘2代の生活史をつづったものですが、その中で林珠榮さんは、そのテレビ番組で初めて父親の死亡の理由を知ったと書いています。

このドキュメンタリー番組を上映します。そして、当時の神戸華僑のことを学びたいと思います。

* * *

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。
手話通訳が必要な場合は、6月6日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。

第75回 10月25日（金）13：00～14：30 「心は前を向いている」

第76回 11月22日（金）13：00～14：30 「ジェンダーと日本の就職制度」（仮題）

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室



THINK×ACT
KANSAI
UNIVERSITY

関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>